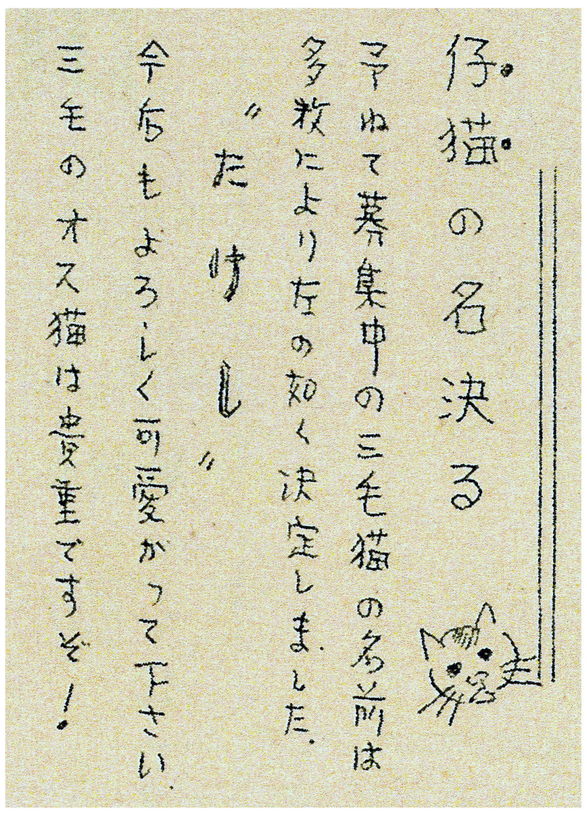
国立極地研究所
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
南極・北極科学館
Polar Science Museum

子猫のたけし、南極へ

子猫はなぜ南極へ？

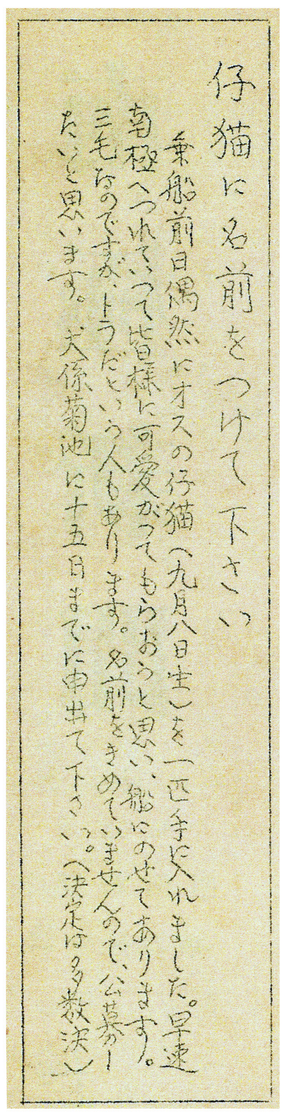

仔猫の名決る

マヤぬて募集中の三毛猫の名前は多数により左の如く決定しました。

〝たけし〟

今后もよろしく可愛がって下さい。

三毛のオス猫は貴重ですぞ！


仔猫に名前をつけて下さい

乗船前日偶然にオスの仔猫（九月八日生）を一匹手に入れました。早速南極へつれて行って皆様に可愛がってもらおうと思い、船にのせてあります。三毛なのですが、トラだという人もあります。名前をきめていませんので、公募したいと思います。大係菊池に十五日までに申出て下さい。（法定は多数決）

【『南極新聞』より
猫の名前の募集記事（右）と、
名前が決定したときの記事（左）】

第１次隊が観測船「宗谷（そうや）」で南極へ向けて港を出る直前のこと。作業に追われる隊員のもとに、１匹の子猫を抱えた女性がやってきました。

「オスの三毛猫は縁起（えんぎ）が良いので、航海のお守りとして連れて行ってください」

手渡された隊員は了解し、子猫は宗谷に乗せられることになりました。この猫が、のちに観測隊とともに越冬した唯一の〝南極猫〟として語り継がれることになる「たけし」です。

たけしの名は、船内で発行する『南極新聞』で募集（ぼしゅう）しましたが、応募（おうぼ）数がわずかで決まらず、相談の上、第１次隊の永田武（ながた たけし）隊長の名前にちなんで名づけられました。隊長は喜びつつも、「コラ、たけし！」などと、いい気持ちで怒鳴（どなる）る隊員が続出するだろう、と苦笑していたとか。

こうしてたけしは、第１次隊とともに南極に向かい、昭和基地の暮らしを体験することになったのです。

たけしの名前について

「たけし」「タケシ」「武」といろいろな表記がありますが、極地研アーカイブ室、南極・北極科学館では、『南極新聞』の表記「たけし」を使用しています。（元データが「タケシ」「武」となっている場合はそれに準じます。）

【永田武隊長】

▶【宗谷に乗って間もない小さなたけし】
隊員の両手の中にすっぽりおさまっています。

Q 南極を離れる宗谷を見送る隊員たち。さて、たけしはどこにいるでしょう？